桃太郎：童話の教訓シリーズ

桃から生まれた桃太郎が猿と犬と雉を従えて、悪さをしていた鬼を懲らしめると言うお話しですが、「協力すれば大きな事を成し遂げる事が出来る」「因果応報、悪い事をしたら自分にも帰って来る」などが教訓として述べられますが、今回も私なりに感じた教訓を紹介したいと思います。

**１．自分が欲しい物を手に入れるためには、相手が欲しい物を与えろ**

桃太郎は家来の動物３匹を従えるために、人々を苦しめている鬼を倒すと言う社会的な意義のあるビジョンを語った所で、動物達からしたらどうでも良い事なわけです、そんな中で、桃太郎は動物達を奴隷化するためには、何をすれば良いかと考え、奴らが欲しいであろう黍団子を与えたわけです。桃太郎は心理学を理解しているクレバーな奴だったのですね～。

さてさて、自分が欲しい物を手に入れるためには、相手が欲しい物を与える。言い換えれば、人が動く理由、動機、インセンティブを考えると言う風にも捉える事が出来ると思います。

人を動かすためには、動機と言うのが非常に大事な事であり、しっかりと動機を考えないと人は動かないし、間違った動機を与えてしまえば、あなたの状況も悪くなる事があるのです。

例えばゴキブリ。

日本でゴキブリが増えすぎて、政府がゴキブリを一匹、殺す度に死骸を政府の施設に持参したら懸賞金を与えたとしましょう。

この動機がどう人を動かすのか？

現存しているゴキブリを殺す人はもちろんですが、ゴキブリを繁殖する人が出てくるでしょう。ゴキブリを飼育し、増やして殺して死骸を持参してお金を稼ぐと言う政府が達成したかった目的とは離れた動機に繋がるわけです。そして、政府はこの制度を取り止めにし、ゴキブリの繁殖をしていた人はゴキブリをリリースし、さらに日本はゴキブリで溢れ返る事になるでしょう。まさに本末転倒。

相手の立場に立つ事がなぜ大事なのか？それは、相手の立場に立って考える事で、相手が欲しい物、動く動機を理解する事が出来るからです。そうすれば、自分が欲しい物を手に入れる事が出来る可能性が上がると言うわけです。

自己中心的と言えば、自己中心的。ただ、相手も嬉しいならば、WIN－WINと言った所でしょうね。